

# Weekly Bulletin 2020-2021



RI会長  
ホルガー・クナー



ロータリーは  
機会の扉を開く

静岡東ロータリークラブ

会長/相原雄治 幹事/長島秀親

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長  
相原雄治

第2986回例会 令和3年6月4日(木)

《司会》長島秀親君

《合唱》「君が代」 「奉仕の理想」

《ソングリーダー》望月康弘君

《ゲスト》なし 《ビジター》なし

《本日のお祝い》

・お誕生日 6月6日 森下登志美君

・結婚記念日 なし

《会長挨拶要旨》相原雄治会長 「地区大会報告」

先週6月25日土曜日にグランディエール静岡にて第2620地区の地区大会が開催され会場には私と長島幹事、島会員が



出向き参加しました。

また、ZOOMによる参加として静岡山梨各地域より多くの方が参加されその様子が会場の大スクリーンに映し出され、新しい形の地区大会を実感しました。

当クラブからは、川崎次期会長がZOOM参加され、お菓子をポリポリとリラックスして参加されている様子が大スクリーンからわかりロータリーのダイバーシティ(多様性)を感じることができました。

また、2620地区各クラブからのビデオ報告も他クラブの様子がよくわかりました。当クラブも観



桜会の時に府月楼で撮影した映像で活動報告をしました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からこのような地区大会になりましたが、リアルに出会うことの重要性もありますがZOOM等を通じ移動の手間や時間等、距離の壁を感じないという観点から今後もこのような形式が有効ではないかと感じた地区大会でした。

《会員卓話》

「昨今の情勢について」 JR東海静岡支社 大協順実君



平成元年にJR東海に入社しました。入社後の仕事については大きく3つに分かれます。ひとつは、東海道新幹線、在来線の鉄道のメンテナ

ンスの仕事。2つ目は、関連事業の仕事、名古屋駅前の超高層ビル「セントラルタワーズ」の計画段階の関係者との協議に携わったり、主要駅の店舗のリニューアルに携わり、静岡アスティであったり、新大阪、京都、名古屋、浜松といった駅の店舗リニューアル、また名古屋駅前の2棟目の超高層ビルである「ゲートタワービル」の計画段階での自治体等との協議をやってきました。3つ目は、セキュリティ、危機管理の仕事。当時ロサンゼルス空港に派遣されていた社員、ワシントン鉄道連邦局に派遣されていた社員などを社内に戻して、セキュリティ・危機管理に関する仕事に携わりました。日本人が人質に取られた際に交渉を行うコンサルタントをはじめ、危機管理の専門家の皆さんとも携わってきました。

趣味はスキーとテニスで、50歳頃まで、冬の週末はスキ

一場に行くことが多かったのですが、今はテニスコートに  
ることが多いですね。テニス観戦も好きなので、テニス好き  
の方はご存知かもしれませんがグランドスラム大会というの  
があって、オーストラリア（全豪オープン）、アメリカ（全米  
オープン）、イギリス（ウィンブルドン）、フランス（ローラン  
ギャロス）の全て観戦しに行きました。チケットがとれると、  
突然行くので、最初は呆れていた妻も、今は諦めているよう  
です。

私は静岡地区の在来線を統括していますが、今回は、会員  
の皆様もご関心のある「中央新幹線計画」について、少しお話  
をしたいと思います。

「中央新幹線計画」は、東京～大阪を最高速度500km/hの「超電導リニア方式」で結ぶものです。開通すると東京（品川）～名古屋は最速40分、東京（品川）～大阪は最速67分で結ばれます。東京・名古屋・大阪の三大都市が一つの巨大都市圏になり、日本の経済・社会活動の活性化に大きく貢献することができます。また、日本の大動脈輸送を二重系化することにより、地震など大規模災害が発生した場合でも輸送を確保することができ、東海道新幹線の将来の経年劣化といったリスクにも抜本的に備えることができます。

当初、2027年の、東京（品川）～名古屋の開業を目指していましたが、ご存知のとおり、スケジュール的に、非常に厳しい状況となっています。

現在、東京（品川）～名古屋285.6kmでは、工期が長期間にわたり、工事が難しい区間から順に契約を締結しており、延長キロで全線の8割以上は工事契約済となっています。沿線では大規模な非常口施設、トンネル、駅施設など、工事が着実に進んでいます。

南アルプストンネルは全長約25kmであり、そのうち長野工区8.4km、山梨工区7.7kmは5年前には着工済みで、トンネル工事も進んでいます。一方、静岡工区8.9kmについては、県の理解が得られておらず、工事に着手できていません。

新聞やテレビなどで「大井川の水」について、報道されています。南アルプストンネル工事に伴い「大井川の水」がどうなるのかとご心配されている県民の皆様も多くいらっしゃると思います。

新聞は文字数が限られていますし、TVも放送時間が限られていますので、どうしても誤解が生じてしまいます。今回は最近の新聞記事を中心に少し解説をしながら説明をしていきます。

## ●大井川の水が毎秒2トン減るのではないかな？

新聞で毎秒2トンの水が無くなってしまおうという記事をよく目にします。大井川の水が毎秒2トン減るのは、トンネル工事に伴う対策を何も行わない場合です。もしかすると新聞記者さんの中にも、毎秒2トンの水が減るのだと誤解されている方がいるかも知れません。トンネル内に湧き出た湧水はポンプでくみ上げて大井川に戻します。水を戻す位置は大井川の上流、畑薙第一ダムの上の「榎島」という場所です。ポンプによりくみ上げられた水が大井川に戻されるので、「榎島」より下流では今より水は減りません。これは国の有識者会議の科学者の方々からも認めていただいています。

## ●水に万が一影響が出た場合の補償はどうするのか？

トンネル工事に伴う対策をしても、万が一、大井川の水に影響が出た場合の補償は、どうするのかという記事が出ることがあります。対策をしたとしても、リスクはゼロではないので、影響が生じた場合の補償の仕組みを明確にしておくべきだ、という指摘です。これに対して、JR東海は、公共工事に伴って周辺環境に影響が出た場合の補償の仕組みに依らず、それを超えて補償を行うことをご提案しています。公共工事に伴い影響が出た場合の補償期間は、通常5～30年が限度ですが、JR東海は、30年を超えることも含め、機能回復や費用負担することを表明しています。また、工事に伴って影響が出たのかどうかについての因果関係の証明は、公的機関や専門家に求める仕組みを検討しています。JR東海は、こうした考えを、県に文書で提出しています。しかし、このことが報道されることはほとんどありません。皆さんの中でも、ご存知ない方が大半だと思います。

## ●山梨県に300万トン～500万トンの水が流れる？

新聞で500万トンの水が山梨県側に流れるという記事を目にします。トンネル工事では、湧水があった場合でもトンネル内に水が溜まらないように勾配を付けて上向きに掘削されます。これは、作業員の命を守るために必要不可欠な措置です。この勾配のため、工事中の約10か月間、山梨県側に水がどうしても流れてしまい、その水の量は、300万トンから500万トンと予測されています。大井川の年間の水量は約19億トンですので、これと比較すると500万トンは大井川の水の0.3%にあたります。山梨県側に水が流れてしまう1年間だけは、大井川の水量は平年（19億トン）の99.7%になってしまうと言うことができます。

見方を変えますと、大井川の水量は、年によって9億トン変動すると言われています。これと比較をしますと、トンネル掘削により500万トンの水が変動することが、大井川全体から見るとどのくらいの影響があるかということは、イメージが掴めると思います。ただし、これは大切な水ですので、山梨県側に流れる500万トンの水を返す方法を検討しています。

●500万トンの水を20年かけて返す、これで静岡県の経済が破綻する？

工事中の一定期間、トンネル内部の湧水が山梨県側に流出してしましますが、解析結果によると、その期間においても、大井川中下流域の水に大きな影響はないことを、国の有識者会議でご説明しています。大井川の水に大きな影響はないものの、県からは「静岡県内で発生した湧水を全部戻すこと」を主張されています。もちろんこれは大切な水ですので、現実的に可能な方策の1つとして、これを20年かけて大井川に戻すことを提案しました。

新聞で山梨県側に流れた500万トンの水を20年かけて静岡県に戻していたら静岡の経済が破綻するという記事を目にします。1年間だけ500万トンの水が山梨県側に流れ出てしまうことや、これを20年かけて静岡に戻していたら、静岡の経済が破綻してしまうとすると、大井川は年によって水量が数億トンも変動するのですから、静岡県の経済は、年による水量の変動によって、何度も破綻してしまっていることとなります。

●国の有識者会議の座長は「御用学者」？

新聞で国の有識者会議の座長は「御用学者」という記事を目にします。現在、大井川の水の問題は国が設置した有識者会議で議論していただいています。JR東海は有識者会議のメンバーではなく、説明責任者として、有識者の先生方からいただいたご意見、ご質問に対して調査・分析等を行い説明する立場です。有識者会議では、1年以上かけて、11回にわたるご議論をしていただいています。有識者会議の委員は、日本の水資源、地下水、トンネル、地球環境等を専門に研究している方々で、内閣府や、環境省などの各種会議で、委員長や座長を歴任されている、各分野の権威ばかりです。

皆さんは、日本を代表する、これらの有識者の方々に「御用学者」と思われるでしょうか？

●なぜJR東海は市長や町長に直接説明しないのか？

県内の方々から、「なぜ、JR東海は市町に出向いて直接説明をしようしないのか？」と言われることがあります。JR東海は一貫して、大井川中下流域の方々の水に影響が生じないように、との考えでありますし、流域の市町へも直接ご説明したいと希望していますが、静岡県から「直接、利害関係者や市町と個別の交渉を行うことは止めてほしい」といった文書を出されております。

現在は、政治的な議論の場ではなく科学的工学的に議論をする場として国の有識者会議で議論されていることから、有識者会議の委員からのご意見に基づき、調査・分析を行って、委員にご説明している状況です。

このように新聞やテレビでは、限られた文字数や限られた時間の中で複雑なことを報道しなければならないため、県民の皆様が誤解されてしまうこともしばしばあると感じています。

私たちは、これからも県民の皆様にご安心いただけるように、必要な調査や分析、分かりやすい説明などを心掛け、継続して実施してまいります。会員の皆様も、引き続き、見守っていただければ幸いです。

《スマイル報告》

長田きみの君 相原年度、最後の理事会が終了しました。満面の笑みをうかべる相原会長とせいせいした顔の長島幹事の顔が目にはやきついて離れません！！ざんげして超大口のスマイルして下さい！！

神野一成君 私の資産管理会社で建設中の浜松市常磐町の賃貸用マンションが完成しアミラム常磐町の名称で運営を始めることになりました。今回はサブスクで行いますので私のリスクは低減されるものと思っています。又静岡市よりワクチン接種券が送られてき、早速予約を入れ、来週火曜日に接種することになりました。

森下登志美君 お誕生日のお祝いありがとうございます。引き続き皆様よろしくお願いたします。

小日向真君 6月1日の結婚記念日に家族がいる名古屋の自宅に素敵なお花が届きました。有難うございます。今年、24周年になりますので、来年が銀婚式です。家族に感謝して、そして、静岡東ロータリークラブの皆さんに感謝してスマイルします。

(会報作成 栗木 良彦)